

## 生有研シンポジウム2017 開催

(平成29年11月28日)

11月28日、若手研究者および大学院生等を対象に、「ユニークな生命現象の解明を目指した「新しい鍵化合物」の創製」と題して生有研シンポジウムを開催しました。本題名は、2014年度SUNBOR GRANTの募集課題であり、2014～2016年度の受給者2名（理化学研究所・Ambara R. Pradipta先生および京都大学大学院工学研究科・清中茂樹先生）に加えて、ケミカルバイオロジー分野の新進気鋭の先生方3名（名古屋大学大学院理学研究科・萩原伸也先生、九州大学大学院薬学研究科・松岡悠太先生、大阪大学大学院工学研究科・堀雄一郎先生）を講師としました。最新の研究成果をご講演いただくとともに、生有研研究員・堀川学ならびに野村薫の研究も紹介しました。聴衆には関西の大学8研究室から40名の若手研究者や大学院生、学部学生が参加しました。講演は大変分かりやすく、示唆に富んだものでした。2012年から続くこのシンポジウムでは、学生・院生に積極的な質問とディスカッションを促し、Best Discussion賞を贈って将来の科学人材を育成することを目的の一つとしています。今回、学部4回生はじめ、院生からの多数の物怖じすることのない鋭い質問に対して講師の懇切な説明があり、活発なディスカッションが繰り広げられました。懇親会では、講師を中心に年齢や分野を超えた議論が交わされ、親睦を深めることができました。また生有研所員も自らの研究を顧みる貴重な機会となりました。今回、素晴らしいご講演を頂いた講師の先生方、シンポジウムを大いに盛り上げてくださった参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。



シンポジウムの様子



懇親会にて

### Best Discussion賞 (右写真、右から)

- (大阪大-理) B4 平尾 宏太郎氏
- (京都大-化研) M2 坂本 健太郎氏
- (大阪大院-理) D1 南野 宏氏
- (大阪大院-理) D2 折井 亮氏
- (京都大院-薬) M2 林 恭平氏

